

味の素食の文化センター研究成果概要報告書

<2020 年度研究助成>

フィリピンのアルコール飲用文化に関する社会学的研究

ココナッツ酒ランバノッグ生産者による大規模中毒事故の診断の分析

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

東南アジア地域研究専攻・瀬名波栄志

2023年6月30日

<2020 年度研究助成>

フィリピンのアルコール飲用文化に関する社会学的研究：  
ココナッツ酒ランバノグ生産者による大規模中毒事故の診断の分析

瀬名波栄志

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科

**本研究の背景：ランバノグについて**

ランバノグはフィリピンで生産されるアルコール飲料であり、南タガログ州の農村部で特に広く生産されており非常に人気がある(Ascan et al., 2010, p. 42)。ランバノグはココナッツウォーターからではなくココナッツの樹液から作られる。ゴムの木から樹液を採取する要領でココナッツの花の茎に傷をつけ、そこから流れ出る花蜜/樹液がランバノグには用いられる。樹液は数日間かけて竹やプラスチックの容器に入れて採取されるが、ヤシの木1本から1日に出る樹液の量はわずかであるため、何本ものヤシの木から集める必要がある。ココヤシから集める場合はいちいち木に登るのは手がかかるため、生産者はそれぞれの木の間に竹でできたスロープを建設し、木と木のあいだを平行に移動することで樹液を収集する。背丈の低いニパヤシでは収集方法がより単純なもの、生産数がココヤシより限られている。その後、樹液を発酵させるために大きな容器に入れ、数時間かけて発酵させる。発酵の過程で樹液に含まれる天然酵母が樹液中の糖分をアルコールに変換するので、その発酵した樹液を蒸留する必要がある。その後は瓶や木製の樽で数カ月から1年、味や濃さの好みに応じて熟成させれば完成する。ほとんどのランバノグは労働者が4人以下の小規模生産者によって何世代にもわたって受け継がれてきた伝統的製法で作られる一方、近年では輸出用のランバノグを作る労働者が5人以上の中規模生産者や、ランバノグを生産する中・大規模企業も現れており、ランバノグもランバノグ生産者も多様化している。ランバノグの生産は1908年からはすでに行われていると言われているものの国際的に受け入れられるようになったのは2001年に輸出市場で披露されて以来だという。というのも、フィリピン包装協会が主催する年次コンペティション「PHILSTAR 2001」でラ

ンバノグはPackaging Excellence Awardを受賞し、2003年にドイツで開催されたAnuga Food Fairでは、337のベストフードイノベーションの1つとして評価されたという(Velasco, 2013, p. 42)。国内外から多くの評価や賞を受けているにもかかわらず、ランバノグ作りはいまだに小規模な産業である原因としては、雨季には樹液が不足するためこの時期のワイン生産が比較的不安定になることと、ココナッツの樹液は少量であるため需要の高さに対して十分な供給を行えないことが挙げられる。

**事例：大規模メタノール中毒事故にかんする生産者・販売者の語り**

〈ランバノグによる大規模メタノール中毒事故〉  
ランバノグによるメタノール中毒事故は今までも何度か起きてきた。なかでも近年もっとも大きかった事件が、2018年と2019年のメタノール中毒事件である。なかでも2019年12月22日に起こった中毒事件は非常に大規模で、北部ルソン島で作られた伝統的な蒸留酒「ランバノグ」を飲んだ住民らがメチルアルコール（メタノール）中毒とみられる症状を訴え、少なくとも11人が死亡、数百人が病院で手当てを受けている。(…)地元メディアはルソン島のラグナ、ケソン両州で計300人がランバノグを飲んだ後、腹痛、めまい、おう吐などの症状で入院したと伝えた。保健省は24日、ラグナ州の町リサルだけで265人が病院へ運ばれたと発表した。(CNN 2019)。最終的に保健省(DOH)によれば2019年12月22日に集団中毒が発生して以来、23人の死亡を確認したという(Mallari Jr. 2019)。23人もが死亡した原因としてはランバノグに含まれていた高濃度のメタノール中毒が挙げられる。警察発表によれば被害者が飲んだランバノグには食品医薬品局(FDA)がアルコール飲料の成分として禁止して

いるメタノールが多く含まれていると発表した。食品医薬品局によればアルコール飲料のなかのメタノールの割合を0.1-0.2%以下におさえるべきところ、実際には5から6%のメタノールが本品には含まれていたという。メタノール中毒の症状は腹痛、吐き気、嘔吐、眠気、過呼吸、視力低下、動機などであり、1、2日後に症状が出る、適切なメタノール治療をできる病院が地元になく、といった点が被害を大きくした。大規模中毒事故の原因にかんしては、メタノールが混入していたこと以外、細かい経緯は明らかになっていない。食品医薬品局（FDA）は事件後の声明のなかで認可を受けていない生産者のランバノグの生産、販売を禁じたが、事件を起こしたランバノグ「Rey Lambanog」の生産者のFred Rey氏は事件の2日後に自首したものの警察発表によればDTIの認可をすでに受けて販売許可を得ていたうえ、当人によれば彼は50年ランバノグ生産に携わってきたという（GMA Integrated News 2019）。一方でメディアの報道は何故か貧困層向けのランバノグの小規模生産と、貧困層によるランバノグの消費に関心が集中していた。2018年のメタノール中毒事件直後に放映された、大手テレビ局GMAの調査報道番組「Kapuso Mo」のなかでは、「ランバノグに含まれるメタノールは空気に触れると毒になるので、ペットボトルではなく瓶に詰めるべき」といった医師の発言を採用しており、貧困層向けのペットボトル入りのランバノグを批判のターゲットにしていた。（GMA TV 2018）。しかし、実際にはメタノールがランバノグに混入した理由はわかっていないうえ、瓶詰めることでどこまでメタノール中毒のリスクが下がるかもわかっていない。おそらく事件後に問題となったランバノグ販売所が封鎖され、ペットボトルやプラスチックのタンク入りのランバノグが回収されていたことがこういったメディアが作り出す言説に寄与している。

#### 〈中毒事故の影響〉

中毒事故がもたらしてきた悪影響は非常に大きかった。ひとつは悪評の拡散でありランバノグ＝危険というイメージをフィリピン国内外に拡散することに繋がってしまった。じっさいテレビ番組やネットニュースで何度も取り上げられ、庶民的大規模ランバノグ生産者である「Gimmy's

Lambanog」の生産者がテレビ報道を通じてランバノグを飲むパフォーマンスを行うこともあった。もう一つは規制であり、なかでも2019年に中毒事故が起こった地域では食品医薬品局の調査が終わるまで地元警察はランバノグの販売を禁止したうえ、事件の震源地であったリサール州では緊急事態宣言が知事によって宣言された。中・大規模生産者にはこの中毒事故以降、州外でランバノグを販売する際には認可を得るために大規模設備投資が必要となり、ランバノグをケソン州で生産し、マニラ首都圏で販売する中規模生産者Aは80万ペソちかい設備投資を必要としたという（ランバノグ生産者・販売者A氏の語り）。この事件以降、ランバノグ生産者はランバノグは安全であるというキャンペーンを行ってきた。先に述べた中規模生産者であり販売者でもあるAはランバノグ販売会でその都度ランバノグが安全であることを説明しているという。しかし、事故から4年経った今でもランバノグ生産者は世界展開を目指して生産量を増やす傍らで、今もネガティブなイメージを完全に払拭することには成功していない。

#### リサーチクエスチョン：

「ランバノグによるメタノール中毒事故はランバノグ生産者・販売者によってどのように診断されたか？」

本研究ではこのリサーチクエスチョンの答えることを目的とする。現状の仮説は、小中大規模生産者・販売者はそれぞれ互いに排他的で、互いの共同を難しくする診断を行なっている、である。

#### 方法論：

##### 診断フレームの分析

本研究では、ランバノグ生産者はどのようにこの事故を診断しているのかを診断フレームの分析によって明らかにする。「フレーム調整過程」（Snow et al. 1986）とは端的に言えば自分たちの関心や目標を支持者や資源提供者のものと結びつけ、彼らが運動キャンペーンや活動に何らかの形で貢献するようにする戦略的努力を包含することを指す。なかでもフレーム調整過程における「診断フレーム」は、社会生活や政府のシステムのある出来事や側面が問題であり、修復や変更が必要であるという診断と、問題であるとされたある状

態に対する非難や責任の追求という二つの側面を伴う」(Snow & Benford 1988)。診断フレームは、「何が問題なのか、何が間違っているのか」、「誰を、何を責めるべきなのか」という問いに対する答えを提供する。(Gamson 1992; Benford & Snow 2000: 615)。つまり、診断フレームが共通していればランバノッグ生産者同士で不要な軋轢を生むことなく、事故の再発防止、そして安全性の宣伝が可能になりうる。一方で小規模、中規模、大規模生産者同士の診断フレームが共通していなければ、互いに同じ目標や利益を共有していても共同は難しくなる。ランバノッグ需要に対してランバノッグの生産が追いついておらず生産者同士の競合が少ない(Ascan et al., 2010, p. 50) という性質上、一見、ランバノッグ生産者・販売者同士の共同は簡単であるように思える。しかし、他の生産者を蹴落とすことにメリットがなくとも現状、小規模、中規模、大規模生産者同士に共通した診断フレームは確認することができない。これは政府機関やメディアの診断が不明確だったことにも起因する。というのも政府機関やメディアはメタノールを原因と診断するものの、ランバノッグにメタノールが混入する社会構造的要因に目を向けていない。

### 研究手法：語りの分析

〈データ〉

本研究では主に ABS-CBN, GMA-TV といった大手ニュースサイトのタガログ語および英語の映像資料を参照した。ニュース映像、ショートドキュメンタリーのなかでは大中小規模のランバノッグ生産者・販売者の語りを取り上げられることが多く、それらを仮説構築のために用いた。しかし、小規模のランバノッグ生産者・販売者の語りは表面的なものにとどまっており、データの不足が目立った。また ABS-CBN や Philippine Daily Inquirer のニュース記事からも事件を参照した。ランバノッグ生産者に直接インタビューも行った。現時点でインタビューを行えたのは、中規模生産者・販売者の A 氏である。彼はケソン州の 85 ヘクタールほどのニパヤシのプランテーションを持って 2、3 人の従業員を雇い、ランバノッグを生産してはマニラ首都圏で販売している。

分析：

### 生産者・販売者による診断

〈大規模生産者〉

高級ランバノッグ「Lakan」を海外向けに輸出している販売ディレクターの Don Dizon は、大手テレビ局 GMA のフードレポート番組インタビューのなかで、「ランバノッグは貧困層の飲み物だというスティグマがある」と語った。GMA Public Affairs, May 11, 2017, "Pinas Sarap: Lambanog ng Batangas, world-class at export-quality! (<https://www.youtube.com/watch?v=es1VEFukNRg>)。また、Jimmy's Lambanog はバタンガス州サンフアン市の大規模ランバノッグ生産者である。2018 年のランバノッグによるメタノール中毒事故を受け、大手 TV 局の GMA のニュース番組「Unang Hirit」のなかで「私たちのランバノッグは安全です」と言いながら実演して飲んだ。その後「もしこれで(ランバノッグを飲んで)死ぬなら私が最初に死にます」とジョーク混じえた (GMA News 2018)。Lakan と Jimmy's lambanog どちらの担当者も中毒事故には直接触れていない。しかしどちらも近代化されて大量生産可能な工場内でテレビ取材を受けている。こうすることで自分たちの工場内では安全なランバノッグが作られていることをアピールしている。



図 1. 生産者・販売者 A がランバノッグの蒸留に用いている

〈中規模生産者の語り〉

中規模生産者・販売者の A 氏はランバノッグ中毒の原因は庶民向けのランバノッグの製造プロセスにあると診断していた。そのため語りの中では自分たちのランバノッグがいかに厳しい審査基準を乗り越えたか、またどれだけ近代的な設備のな

かでランバノッグを製造しているかを強調していた。また、語りのなかでも庶民向けのプラスチックペットボトル入りのランバノッグとは異なり、瓶を用いていることを強調していた。また、A氏はランバノッグを販売する際は中毒を起こしたココヤシではなくニッパヤシを使ったランバノッグを販売していることを強調しているという。ここからわかるのは、小規模生産者、なかでも庶民向けのランバノッグの製造方法への不信感であり、そこに中毒事件の原因があるという診断である。

#### 〈小規模生産者〉

小規模生産者へのインタビューは検討しているものの、フィールドとのコネクション形成の難しさと中毒事件について聞くというデリケートさからまだ行うことはできていない。しかし、中規模生産者による庶民向けのランバノッグを一緒にたにし、小規模生産そのものに原因があるとする語りとはまた別の診断を行うことが予想される。

#### 〈現状の分析結果〉

現状では大規模生産者は設備の近代化をより徹底することによって中毒事故は予防できる、つまり近代化の遅れを中毒事故の原因だと診断していることが予想される。これは結果として十分な設備投資を行う余裕のない小規模生産者の多くを排除する診断フレームである。また、中規模生産者による中毒事故の診断が小規模生産者を一括りにし、小規模生産者に責任を全て転嫁するものであったことがわかる。つまり、特に中規模生産者と小規模生産者の診断フレームは特に共存不可能であり、いわば中規模生産者による小規模生産者への中毒事故の責任の押し付け合いが起きていることで二つの生産者同士のフレームが排他的になっている。しかし実際には近代化の未徹底、小規模生産という生産体制自体に問題があるという診断が正しいかどうかにかんしてはいまだにわかっていない。

#### 〈今後の課題〉

今後は生産者・販売者へのインタビューを行っていく。それによって資料調査により構築した仮説を語りから実証していくこととする。特に事故を起こした責任を問われている小規模生産者の語りを得ることを目的とする。それによってどう

してそれぞれの生産者同士を排除するような診断フレームが形成されるに至ったかを考察する。

#### 参考文献

Snow, D. A., & Benford, R. D. (1988). Ideology, frame resonance, and participant mobilization. *International social movement research*, 1(1), 197-217.

CNN(2019) 「ココナツ酒でメタノール中毒か、11人死亡 フィリピン」,  
<https://www.cnn.co.jp/world/35147338.html>.

Mallari Jr., Delfin T (2019) “Lambanog’ death toll reaches 23”, December 29, 2019, <https://newsinfo.inquirer.net/1206933/lambanog-death-toll-reaches-23>.

GMA Integrated News (2019) “SONA: Nagtinda ng nakalalason umanong lambanog, nag-sorry; manufacturer nito, iginiit na.”, December 26, 2019, <https://www.youtube.com/watch?v=2VTackCtzbU>

GMA TV(2018) “Kapuso Mo, Jessica Soho: Ilang lambanog sa Calamba, Laguna, ligtas nga ba?” December 16, 2018, <https://www.youtube.com/watch?v=mU9gaqnWb6I&t=419s>

GMA Integrated News (2018) “May-ari ng Jimmy’s lambanog, ininom ang sariling produkto para patunayang ligtas ito “ December 2, 2018, <https://www.youtube.com/watch?v=Px0mjWBtkHc>